



センターWebページへ

トップ

特別支援教育課の取組み

教育相談課の取組み

講座紹介・受講者の声 1

講座紹介・受講者の声 2

お役立ち情報・お知らせ

## ハイライト:

「教育相談」の特集号です。

教育相談活動の事例の紹介、適応指導教室のQ&Aについて紹介します。

## 目次:

|                    |   |
|--------------------|---|
| 特別支援教育課<br>の教育相談事例 | 2 |
| 適応指導教室 Q&A         | 3 |
| 講座紹介・受講者の声         | 4 |
| ライブラリ・お役立ち情報       | 6 |
| お知らせ               | 6 |

# 青森県総合学校教育センター センターだより

## 巻頭言 「人づくり」を担える「教師力」を

平成19年6月、三村申吾知事が2期目の就任挨拶の中で、「私たちを取り巻く環境は、未だ非常に厳しいものがあるが、このような時だからこそ、私たちの持てる力を結集し、私たち自身の手で、この青森の未来を切り拓いていかなければならない」こと、更には自主自立の青森県づくりを進めるため以下の5つの分野に重点的に取り組む旨を述べたことは記憶に新しいところです。その5つとは、「教育・人づくり」「産業・雇用づくり」「安全・安心と健康づくり」「環境づくり」「行政基盤づくり」のことですが、その最初に「教育・人づくり」を掲げ、「人は石垣、人は城、そして人は財（たから）」、つまり何事成すにも「人財」が基本となると述べられたことは、今後の本県教育の在り方を考える上で、非常に暗示的なことのように思われ

てなりません。「青森県総合学校教育センター」も、早いものでここ青森市大矢沢の地に居を定めて今年で10年目を迎えることになりました。毎年約200近くの講座を運営し、数多くの本県教職員の方々に研修の場を提供できたことに、いささかではありますが、所員共々誇りを感じずにはいられません。

知事の言葉を待つまでもなく、何事成すにも「人財」、未来を創る人財の育成が急がれるところです。ただ「教育・人づくり」に共感・賛同される方々であっても、その一方で近年における「児童生徒の学力不足や学びからの逃避」傾向については、困ったことだと指摘する向きもいっしょに知れません。しかし、「学力不足や学びからの逃避」にばかり焦点が当てられたのでは、今という難しい時代を生きなければならない「児童生徒」も、なかなか立つ瀬が無かろうと言うものです。

さて、このような状況の中で教員に求められる資質能力について諸説はあるものの、「新しい時代の義務教育を創造する（答申）」（平成17年10月、中央教育審議会）を踏まえ、3項目から成る「15の資質・能力」としてまとめられたものが、新潟県立教育センターや群馬県総合教育センターのホームページや調査研究等に見ることが出来ます。以下に記すように、それは特殊な能力などではなく、私たちが普段の学校生活の中で必要と感じるものばかりです。

### I 教職に対する強い情熱

- ①強い使命感（教員の仕事の重要性を自覚し、その自覚に基づいて行動しようとする意識）
- ②高い倫理観（教育者として誰からも信頼される正しい行動意識）
- ③教育的愛情（児童生徒一人一人の成長を深く願う心情）
- ④継続的な向上心（教員として常に向上しようとする意欲・態度）

### II 教員としての専門的力量

- ⑤児童生徒理解力（児童生徒の実態や発達について理解する力）
- ⑥学習指導力（児童生徒が分かる授業をつくるための指導技術）
- ⑦生徒指導力（児童生徒の心を育てる力）
- ⑧マネジメント能力（児童生徒一人一人の力を伸ばす経営を行う力）
- ⑨課題解決能力（指導上の課題を解決したり、新しい教育課題に適切に対応する力）
- ⑩危機管理能力（安全で平穏な学校生活を守る力）

### III 総合的な人間力

- ⑪豊かな人間性（人間として・教師として望ましい有り様）
- ⑫常識・教養（社会の常識や教養をわきまえて行動しようとする意識）
- ⑬協調性・協力性（力を合わせ、互いに助け合おうとする意識）
- ⑭対人関係能力（他人との関係を円滑に築き、信頼関係を構築する力）
- ⑮コミュニケーション能力（相手の思いを正しく受け止め、自分の思いを適切に伝える力）

「教育は、担い手である教師への依存度が高く」、また「教育の成否は、子どもたちを直接指導する教師如何で決まる」とよく言われますが、言い換えれば、あらゆる教育論を突き詰めると、『教師論』に行き着くと言うことでしょうか。上述した「教師に求められる15の資質・能力」を日常の中に埋没させたり見失わないためにも、自己研修、校内研修、校外研修等への積極的な参加や、研修成果の共有化とその有効活用が、教師一人一人に課せられた喫緊の課題のように思えてなりません。

教職員の研修は、研修を通じて「個人としての専門的な資質や能力の育成」、更には「学校という組織の中で必要な資質や能力を育成する」という面で、学校の活性化や充実にとって欠かせないものです。勿論、スキルを高めることも大切ですが、児童生徒としっかり向き合い、しっかり受け止める「心豊かな教師」に出会えることが、幸せなことには違いありません。

当センターも、研修に参加された方々の「研修ニーズ」に対応できるよう、研修直後や学校に帰られてからの授業に有益であったか、或いは校内研修等に有効に活用出来たかについてのアンケート調査を実施し、毎回「内容の見直しや改善」に努めています。

「教育・人づくり」を引き合いに出しましたが、我々がこれからも「教育」に携わる限り、「人づくりの前に人づくりのためのしっかりした教師力養成・授業力向上」もますます大きなウェイトを占めるのではないかと、日頃考えていることを書き連ね、筆を置くことにします。

夢はぐくむ教育を推進するために「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」



青森県総合学校教育センター  
副所長 鳴海 悟



特別支援教育課  
—障害児教育相談窓口—

## トップ

### 特別支援教育課の取組み

#### 教育相談課の取組み

#### 講座紹介・受講者の声 1

#### 講座紹介・受講者の声 2

#### お役立ち情報・お知らせ



教育相談室洋室



待合いロビー

## 特別支援教育課の教育相談事例

特別支援教育課で行っている、教育相談の事例について紹介します。

### 教育相談事例 1

#### Aくん（高機能自閉症）の社会性獲得に向けてのアプローチ ～プラモデル作りの活動をととして～

Aくんは高機能自閉症と診断された中学生である。中1の時点で母や周囲の人たちが気づき、医療機関へ相談し、高機能自閉症と診断された。その後、専門機関が本人へ障害告知をしたケースであった。攻撃性が強く、セルフエスティーム（自己有能感）を失った状態で、私との教育相談が始まった。

相談の初期は、学校での学習や友だち関係のことを内容にしたアドバイスの相談スタイルをとった。ある時、母親との面談の際、Aくんはプラモデルが好きで家ではよく作っているが、上手くできないと興奮して壊してしまうことを聞いた。Aくんのこのような攻撃的な行動は、思い通りにいかない、またはできない時に、対象となっている物や人に対して起こるのではないかと直感した。それ以来の教育相談では、プラモデル作りを中心に取り組むことにした。今まで接着剤で汚したことを悔やんで投げ出してしまっていたが、塗装技術を獲得したことにより修正が可能なることを知り、投げ出して壊すこともなくなった。何事もやり直しできることがわかったと、後日、私に語ってくれた。

プラモデル作りに限らず、物を作るということは、様々なスキルの積み重ねの上に成り立っている。特に社会性スキルの点で考えれば、道具を借りる時、わからないことを尋ねる時、準備や後片づけをする時、様々な場面で「挨拶」、「了解」、「合意」、「謝罪」等の社会性が必要になる。子どもの興味・関心に基づいた活動内容の設定が重要なことを改めて考えさせられたケースであった。

### 教育相談事例 2

#### セルフエスティーム（自己有能感）を高めるために ～特別支援学校との連携をととして～

Bさんは漢字が得意だが、間違えることが嫌なこと、人前に出ることが苦手なこと等の要因が重なり、一般会場で漢字検定を受けることができず、ただ自宅で問題集をこなすだけであった。これまで何かの試験に合格したという体験がないとのことで、何とか試験を受けて合格という体験をし、自信をつけてもらいたいと考えていた。

ある日思い切って本人に受験を提案してみると、「部屋で一人受験できるなら、チャレンジしてみてもよい」とのことであった。そこで早速、（財）日本漢字能力検定協会に当センターで受験させてもらえるようお願いをしたところ、何回かのやりとりの末、センターはどうしても受験会場にすることはできないが、特別支援学校であればOKとの返事をいただいた。小学校、中学校及び高等学校に準ずる教育課程のある特別支援学校であれば、年に何回か漢字検定を実施しているので、Bさんの自宅近くの特別支援学校に協力を願ったところ快く会場の提供を承諾していただき、別室も用意していただいた。その後、一度下見を行い、試験当日も無事受験することができた。

現在日本は、障害者権利条約への署名をし、教育分野のみならず様々な関係省庁が、発達障害者等を含めた障害のある方たちのために、新たな取り組みを次々と開始しようとしている。国民に広く周知されるには時間がかかるかもしれないが、一步一步、できるところから横のつながりを大切に、各種団体や関係機関同士のパイプを太くしていくことが大切であると感じた。

合格証書を手にしたBさんの照れくさそうな笑顔がとても印象的であった。このことを契機に、さらに外の世界へと足を踏み出す勇気をつかんでももらえるよう、陰ながら応援をし続けていきたい。

教育相談課で行っている。適応指導教室をQ&A形式で紹介いたします。

Q 適応指導教室は、どんなところですか？

A 県内全域の不登校の小学生・中学生（高校生）に対して、それぞれの状態に応じた援助を行い、学校への再登校と社会的な自立を目指すところです。既存の学校に適応できない子どもが通うということで、まれにフリースクールと勘違いされる方がおりますが、あくまでも学校への再登校が目的であり、いわゆるNPO法人等のフリースクールとは違います。

Q 適応指導教室に入るには、どうすればよいですか？

A いきなり適応指導教室への通所となるわけではありません。すぐに適応指導教室に通えるぐらい元気のある子どもでしたら、学校に再登校させる方法を考えます。ですから、まずは面接相談から始めます。面接相談を行うなかで、相談員が適応指導教室で集団適応力を高めていった方がよいと判断し、本人が適応指導教室に通う意欲をもち、保護者が同意した場合に通所となります。その場合も体験通所から少しずつ始めていきます。ですから017-728-5575へ電話をすることから始まります。

Q 適応指導教室では、どんなことを行っているのですか？

A 原則として、水曜日以外の10時から12時までは「学びタイム」で、基礎学力を伸ばすための学習支援を行っています。授業形式ではなくあくまで支援で、それぞれが勉強している内容を指導員がサポートします。水曜日以外の13時から15時までは「フリータイム」です。水曜日は午前中の「スポーツタイム」で、体育館等を使って集団でスポーツを楽しみます。なお、キャンプやボランティア・職場体験、文化祭などの行事もあります。

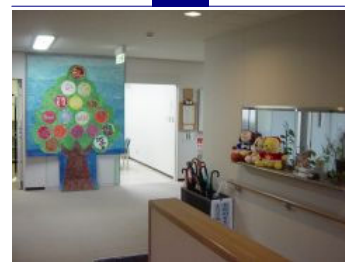
Q 通所の手段は？

A 自転車でも通所できますし、市営バスの「学校教育センター行き」に乗車して、路線バスでも通えます。また、専用の無料通所バス「ウイングス」も、通所時刻に合わせて、青森駅前と学校教育センターを往復しています。

Q 学校との連携は？

A 体験通所時に、相談員が学校を訪問して、学級担任と情報交換を行います。学校への再登校が目的の施設ですので、子どもの状態に応じて、随時、電話連絡や訪問をして、学校とは連携をとり続けていきます。そして、年3回（6月・11月・2月）「学級担任連絡会」を実施しています。

詳しいことにつきましては、  
青森県総合学校教育センター  
教育相談課 電話相談室  
017-728-5575  
へお問い合わせください。



教育相談課  
—教育相談・適応相談窓口—

トップ

特別支援教育課の取組み

教育相談課の取組み

講座紹介・受講者の声 1

講座紹介・受講者の声 2

お役立ち情報・お知らせ



適応指導教室  
—学びの部屋—



適応指導教室  
—ふれあいの部屋—

## 講座紹介・受講者の声

これまでに開催された講座の様子を受講者の声を交えて担当者が紹介します



中学校初任者研修  
—情報教育講座の様子—

## トップ

## 特別支援教育課の取組み

## 教育相談課の取組み

## 講座紹介・受講者の声 1

## 講座紹介・受講者の声 2

## お役立ち情報・お知らせ



県立学校 10 年経験者研修  
—社会体験講座—

## 「講座番号 011・012・014・015 初任者研修（中学校）」

初任者研修（中学校）では、11月8～9日の情報教育講座までで4回8日間のセンター研修が開催されており、各講座では次のような感想が寄せられました。

## ◆受講者の声

- ・011 学級経営基礎講座：「学級担任は学級を心の居場所とすることを目指して、生徒理解に徹しなければならないと分かった。」「学級開きのポイント、学級目標の作り方、学級通信の工夫など参考になり大きな収穫だった。」「3年間を見通した進路情報発信が大切だ。」
- ・012 教科教育基礎講座Ⅰ：「教材研究は毎日・毎週の少しずつの研究の積み重ねが必要であることが分かった。」「十分に教材研究をして生徒にインパクトを与えられる授業をしたいと強く思った。」「演習では、模擬授業を見て協議し合うことがとても勉強になった。」
- ・014 生徒指導基礎講座：「温かい人間関係づくりのため、活動を終えた後の振り返りの場面で、教師の思いを伝えることが大切だと分かった。」「不登校の事例を自ら考察し、意見交換できたので大変参考になった。」「面談の演習では、教師の態度の違いによる、生徒の受け取る気持ちの変化を体験できた。」
- ・015 情報教育講座：「著作権に関して今まで曖昧だった部分がはっきりした。」「今回学んだパワーポイントを教科や道徳の授業に生かしたい。」「ICTを活用する場合は、扱う分野が適切か、生徒への提示する内容が適切かをしっかり検討したうえで注意しながら行っていくべきだと思った。」

## 「講座番号099 県立学校10年経験者研修 社会体験講座」10/1～10/3 開催

この講座は、県立学校10年経験者研修の当センターで実施する共通講座4講座の中の1つの講座です。幼児教育体験、福祉貢献体験、公共施設での作業体験、民間企業体験等の体験活動を通じて、中堅教員としての社会的視野を広げ、今後の教育活動に生かしていくことを目的とした講座です。

今年度は、1日目の午前の「ボランティア活動について」の講義と、その後、10コースに分かれての社会体験活動を3日間実施しました。異業種への理解が深まるとともに今後の教育活動に生かせるものを得るよい機会となりました。

## ◆受講者の声

- ・教員という職業に就き、他の職業を知らずに今日までやってきたが、どれほど一般の職業が大変であるかということ、たった3日間ではあったが教えていただいた。
- ・障害者に対する理解が深まり、心の距離も縮まったような気がする。障害があることを除けばわれわれ健常者と何ら変わらないのだと強く感じた。
- ・水族館は華やかで楽しいと思われる場所であるが、その華やかさを引き出したり作り上げたりするための日々の努力や生き物を扱う大変さ、難しさを体験できた。

## 「講座番号097 県立学校10年経験者研修（特別支援学校）スキルアップ講座」

8/7～8 開催

この講座は、特別支援学校の教職経験10年の先生方を対象として行いました。内容としては、中堅教員としての資質及び指導力の向上を図るため、東北福祉大学阿部芳久教授による「個々の児童生徒を生かす学習指導の在り方」の講義、先輩の先生方の実践発表、そして4名の特別支援学校教頭先生を助言者に迎えての授業研究、と盛りだくさんでした。受講者にとっては、自分の実践を振り返り、他校の実践を広く知るよい機会であったとともに、ビデオ等を用いての授業研究もあったため、とても好評でそれぞれのニーズにも十分に答えることができたと考えています。

## ◆受講者の声

- ・講義では、一つの授業を計画する際、しっかりとアセスメントをし、一人一人の子どもの発達段階に合ったプログラムを立てなければならないなど、日頃の自分に欠けていたことの多さに気づかされました。
- ・講義や発表を聞き、自分の「授業づくり」をやっていかなければならないと改めて自覚しました。
- ・協議で、他校の先生の指導案をみたり授業で工夫していることなどを聞き、活発な意見交換ができ、早速自分の授業に生かしていきたいと思いました。

「講座番号608 心理検査実技講座」 10/1～10/2 開催

学校現場ですぐに使える投映法 ―コラージュ療法―

「心理検査実技講座」では、3年連続で、第一人者である日本医科大学の杉浦京子先生をお招きして、コラージュ療法を紹介してきました。コラージュ療法とは、簡単に言えば、気に入った雑誌の切り抜きを画用紙に貼っていくという、教員が現場で使いやすい心理療法です。聴講も含めると35名が受講して、コラージュの制作演習、理論的なレクチャー、事例検討等を行いました。

この講座で「癒し」と「元気」をもたらした受講者の感想の主なものを紹介します。

3年連続で紹介し、県内でもある程度コラージュ療法が定着してきましたので、来年度は、学力向上のための標準学力検査や、学級経営のためのQ-U検査について紹介する予定です。来年度もどうぞ、御期待ください。

◆受講者の声

- ・とにかく楽しかったです。心の内面が表現されるのに驚きました。
- ・夢中でコラージュを作りました。知らないうちに心が解放され、癒された気持ちになりました。
- ・学校に帰ったら、子どもたちと一緒にコラージュに取り組んでみたいです。また、校内研修等で学校のみならずにも紹介したいと思いました。
- ・不登校等の問題行動が出現する前に、予防開発的な活動として取り入れても有効だと思いました。
- ・コラージュの本を読んで、本格的に勉強したいと思いました。
- ・講師の先生の笑顔がとても素敵でした。



コラージュ療法の講座風景



「講座番号821 Webサイト運用管理講座」 10/30～10/31 開催

この講座は、学校のホームページの運用管理に係わる先生方を対象にした、ホームページのアップデートやサーバサイドプログラムの活用など運用と管理に主眼をおいた講座です。受講した先生方には、ホームページビルダーを利用し、基本的な操作からタグの変更やFTPツールを利用したホームページの更新など、サーバとクライアントを意識した内容となっております。

Webページに関係する講座としては、Webページ作成基礎講座を年2回、Webサイト運用管理講座を年2回実施しております。来年度も開催いたしますので是非受講していただき、学校ホームページの運用を活発に行うなど、情報発信に御活用ください。

◆受講者の声

- ・演習の中に、今まで知らなかった作成方法が多数含まれていてとても参考になりました。今後学校のホームページ作成に生かしていきたいと思います。
- ・非常に短い日程でしたが、中身の濃い内容で充実した研修を受けることができました。セキュリティの面からも、サーバの中の古いデータは確認し、削除などの手だてが必要であると感じました。学校のメールアドレスも画像にすると良いということがわかりました。サイト運用基準もこれから作成したいと思います。
- ・現在の本校のホームページがフレームで作成されています。そのよさを初めて知りました。ほかの先生方と協力し、ホームページを作成する手だてに見通しがもてました。
- ・情報モラルの大切さもよく理解できました。
- ・Webページ基礎講座ではよく理解できていなかったHTMLファイルの内容についてや、クライアントとWebサーバ、FTPサーバの関係についても簡単な流れをつかむことができました。



Webサイト運用管理講座の講座風景

トップ

特別支援教育課の取組み

教育相談課の取組み

講座紹介・受講者の声 1

講座紹介・受講者の声 2

お役立ち情報・お知らせ

## ライブラリ・お役立ち情報

### ～ 新着図書・ライブラリ紹介 ～

今年度第2次購入分の新着図書の一部をご紹介します。ライブラリには現在約2万冊の蔵書と約3万冊以上の教育資料があります。そのほかにも、ライブラリでは教育用のビデオやDVDの試聴もでき、またインターネットに接続したコンピュータも使用できます。センターに来所の際にはぜひライブラリにもお立ち寄りください。

| 書 名                                | 編著者         | 発行・出版社 |
|------------------------------------|-------------|--------|
| 魂を養う教育 悪から学ぶ教育 私の体験的教育論215の提言      | 菅野綾子        | 海竜社    |
| 教室に正義を！ いじめと闘う教師の13か条              | 諸富祥彦        | 図書文化社  |
| 子どもが伸びる共育コーチング                     | 石川尚子        | つげ書房新社 |
| 「学び」を変える教材づくりへの挑戦                  | 有田和正        | 明治図書出版 |
| 子どもがはじけるミニ音楽劇！ キッチンパニック／風の子守歌      | 河原木孝浩       | 音楽之友社  |
| 情報モラルを鍛える 子どもに求められるコミュニケーションのちから   | 赤堀侃司 ほか     | ぎょうせい  |
| 発達障害を持つ子への保育・子育て支援 -理解と適切な関わりを求めて- | 湯汲英史        | 明治図書出版 |
| 子ども虐待という第四の発達障害                    | 杉山登志郎       | 学習研究社  |
| 自閉っ子、自立への道を探る                      | 服巻智子        | 花風社    |
| 読み書き障害(ディスレクシア)のすべて                | サリー・シェイウィッツ | PHP研究所 |
| ADHD/LD指導の基礎基本 -知って欲しい・できて欲しい50の原則 | 横山浩之        | 明治図書出版 |
| 僕はパパを殺すことに決めた                      | 草薙厚子        | 講談社    |
| 不登校の子どもに教えられたこと -元教師による不登校問題への提言-  | 伊藤功一        | 日本標準   |
| 品川区小中一貫教育要領                        | 品川区教育委員会    | 講談社    |
| 全国の教育センターの研究成果から学ぶ 学校力が上がる 教師力が伸びる | 全国教育研究所連盟   | 教育新聞社  |

## おしらせ

### ～ センター研究発表会を開催します ～

当センターでは、研究成果を広く教育関係者に発表し、本県の教育向上に資するために、「青森県総合学校教育センター研究発表会」を開催しています。

今年度は、平成 20年1月10日（木）～ 11日（金）2日間の日程で開催します。

1日目 1月10日（木）

| 9:30           | 10:00 | 10:15   | 11:45 | 13:00         | 16:00                    |
|----------------|-------|---------|-------|---------------|--------------------------|
| 10<br>日<br>(木) | 受付    | 全体<br>会 | 講演    | 昼食<br>・<br>休憩 | 部 会 別<br>研究発表会<br>(26発表) |

2日目 1月11日（金）

| 9:30           | 10:00 | 11:50                    | 12:00       |
|----------------|-------|--------------------------|-------------|
| 11<br>日<br>(金) | 受付    | 部 会 別<br>研究発表会<br>(18発表) | 閉<br>会<br>式 |

◎ 講演 「教育の今日的課題～いじめ・不登校・学力問題・保護者からのクレーム～」  
講師 諸富 祥彦（明治大学文学部教授）

なお、研究発表テーマ及び発表者、申込方法を記載した[開催案内をセンターWebページ](#)に掲載しています。多くの参加をお待ちしております。

### 編集後記

10月下旬から11月中旬にかけて、県高等学校総合文化祭自然科学部門大会、児童生徒理科研究大会、日本学生科学賞に審査員として参加させていただきました。ここ数年、児童生徒の「理科離れ」、「理科嫌い」が深刻な問題となっていますが、理科(科学)に興味をもち、一生懸命取り組んでいる子供たちがたくさんいることを知り、少しホッとしました。ガチガチに緊張しながら、自分たちの研究について必死に説明する小・中学生、高校生の姿に、忘れかけていた探究心や情熱を呼び起こされた気がします。

当センターでは、教科に限らず、先生方に少しでも有用な情報を提供し、学校現場で生徒たちのために役立てていただくことを目的として、各種講座をはじめとする業務に取り組んでおります。今回の「センターだよりW版」では、業務の柱の一つである教育相談事業についての特集を掲載しました。最近の学校では、特別支援教育の理念に基づいた学校経営が求められるようになりました。校種にとらわれることなく、積極的に取り組む姿勢が大切かと思ひ、各教育相談に関する情報を発信いたします。

(広報委員 山田 昭)

トップ

特別支援教育課の取組み

教育相談課の取組み

講座紹介・受講者の声 1

講座紹介・受講者の声 2

お役立ち情報・お知らせ



昨年度の研究発表会の様子